

『少女地獄』における創作意図

I.A<国①ゼミ>

1.はじめに

『少女地獄』は当時の社会の風潮から外れた個性的な女性達を中心に書かれている。そこには夢野久作(以下、夢野)の当時の社会に向けたメッセージがあったのではないだろうか。なぜ夢野はそうした女性達を中心に物語を書いたのか、そこにはどのような意図があったのかを明らかにする。

2.1.仮説

『少女地獄』が刊行された1930年代当時の男性が求める女性の理想像とは異なる女性像を描くことにより、女性に強く役割を求める社会の風潮を批判しようと試みたのだと予想される。

2.2.調査方法

『少女地獄』は3つの小説が集まった短編小説集である。それぞれの物語で中心となる女性達に焦点を当て、当時の社会の風潮といかに反し、そこに夢野はどのような意図を込めたのかを参考文献をもとに考察する。

3.1.当時理想とされた女性像の整理

『少女地獄』が刊行された当時、すなわち1930年代における一般的な理想の女性像は、家で家事・育児にいそむ、まさに「良妻賢母」であった[1]。しかし、同時期「職業婦人」と称される女性達が日本の社会で増加していた。職業婦人とは、戦前期の日本において従来では男性の仕事とされてきた職業に就いた女性のことである[2]。世間では当時彼女達に対しては主に男性から、これまで自分達が行っていた仕事を彼女達に奪われるのではないかという不安からか、批判的な意見が多かった。

3.2.女性達の性質の分析・考察

3.2.1.姫草ユリ子

〈あらすじ〉ある日突然白杵病院へやって来た謎の女性、姫草ユリ子(以下、姫草)。彼女は看護婦としての確かな腕と老若男女を虜にする魅力から患者達、病院の主人やその家族に親しまれ愛される。しかし物語が進むにつれて彼女の今までついてき

た嘘がばれていき、出生や経歴、名前までもが全て嘘だったことが分かる。自身のこれまでの嘘が暴かれた姫草は、最終的に自殺する。

物語の中で姫草は、ただ自身を嘘で破滅させた人という評価を与えられて終わるのではなく、ある意味一貫した清浄な女性として解釈され、批判よりも同情や哀れみを向けられて終わる。これは当時、いや現代であってもこういった解釈は稀であることから、ここに夢野の意図が現れていると考えられる。夢野はこの「周囲の人間」に彼女が嘘をつかなければ生きていられなくなるほど生きづらい、女性に女性にとっては生きにくい、男性からの理想や要求が求められるばかりの社会を投影し、それに女性が追い詰められ殺される危険性を社会が孕んでいることを読者に訴えているのではないかと考える。

3.2.2.友成トミ子

〈あらすじ〉女車掌として働く友成トミ子(以下、友成)が勤める会社に、以前友人の女車掌を殺した男性の運転手が就職してくる。友人の仇を取ろうと心に決めた友成だが運転手と交際関係になり、決意もすっかりなくなってしまう。しかしある日殺された友人と生前やりとりしていた手紙が運転手に見つかり、自身も殺されそうになる。そして仕事の中で自身を事故に見せかけて殺そうとする運転手の行動を先回りして防ぎ、逆に運転手のみが事故で亡くなってしまう。彼女は友人の仇をとれたことに歓喜し、復帰後は日本一の女運転手になることを目標に新しい人生を歩もうとするのだが、彼女はその後突然運転手の死に際の言葉からが自身を本当に愛していたのだと考え後悔し、運転手との子供ができたことなどもあり、運転手の後を追って自殺する。

彼女は途中まで女性を支配しさらに危害を加えようとしてくる男性から自身を守り新しい人生を目指す女性であったが、最後には根拠のない男性からの「愛」という縛りを理由に、その人生を終わらせてしまう。夢野は友成という、女性が社会で男性と同じような立場を得る動きが現れてきた社会で男性の支配から一時は抜け出し、いくなれば良妻賢母の社会風潮とは反した新たな女性が最終的には男性か

らの強い支配に抑圧され潰されてしまうという結末を描くことで、女性を支配し続けようとする男性を批判し、男性からの支配を甘んじて受け入れる女性への問題提起をしたのだと考える。

3.2.3. 甘川歌枝

〈あらすじ〉とある県立高等女学校の女学生、甘川歌枝(以下、甘川)。彼女は小さい頃から高身長で運動神経が高いことから周囲の人間にからかわれ、学校に進学してからも男性の校長に「火星の女」というあだ名をつけられ、周囲からはますます遠ざけられる。淋しい生活を送る中で、学校のある廃屋の2階で景色をただ眺める時間が自身の楽しみとなるのだが、ある日の放課後、同じ廃屋の階下で校長と書記が校友会費の誤魔化し方を相談しているところを発見する。そしてまたある日、不祥事を起こす校長と出くわし、口封じのために大阪の新聞会社へ就職させられそうになる。彼女は世間から聖人として非常に高い評価を受けていた校長が裏では悪事を行っていたことに大変なショックを受け、それと同時に男性中心な社会への積年の不満を爆発させる。校長のこれまでの悪事を、学校の物置に火をつけ、そこで自身も焼身自殺することで世間にそのことを広く伝えようと行動しこの物語は終わる。

あらすじのみからでも分かるように、甘川は三人の女性の中で最も強く当時の男性中心な社会や、それを助長する男性に対して特に強い不満を抱いている。彼女の発言からその心情を深く察することができる。ここに、夢野の意図が顕著に現れている。夢野は甘川に、当時男尊女卑が蔓延る社会に対し批判的な意見を持つ自身を投影し、読者に対し、男性ばかりが優位で女性には「良妻賢母」の役割を押し付ける社会の歪さを真に訴え、女性達に対して男性からの支配への反抗の意義を説いているのではないかと考える。

5. 結論

ここまでの調査から姫草ユリ子、友成トミ子、甘川歌枝、この3人の女性達の結末には皆最終的に自殺により亡くなるという共通点がある。なぜ、夢野はあえて3人全員をこのような悲劇的な結末で終わらせたのか。3人の女性達は作中、当時の女性が男性に束縛・抑圧される社会の風潮やそれを助長する男性達にそれぞれの形で抗っている。しかし3人共、最後までその社会で思いのまま生きることは叶わなかった。夢野は三つの物語を通して読者に対して、当時の男性が常に優位であり、女性には「良

妻賢母」な、男性からの要望に従順な女性像を求める社会に疑問を呈し、男性には自身がその風潮を助長させていることに対する自覚を、女性には男性優位な社会の風潮に従うべきなのか、反抗する意義はどのようなものかを、敢えて女性が追い詰められ終わる悲劇的な結末で強く訴えているのだと考えられる。

謝辞

本研究の遂行にあたり、指導員として終始多大なご指導を賜った、安里先生、並びに平井先生に深謝致します。

参考文献

- [1]山崎貴子(2009)戦前期日本の大衆婦人雑誌にみる職業婦人イメージの変容.教育社会学研究第85集.
p.94.[https://www.istage.ist.go.jp/article/eds/85/0/85_93/pdf/-char/ja\(2023-12-1\)](https://www.istage.ist.go.jp/article/eds/85/0/85_93/pdf/-char/ja(2023-12-1))
- [2]濱(山崎) 貴子(2011)1930年代日本における職業婦人の葛藤―読売新聞婦人欄「身の上相談」から―.京都大学大学院教育学研究科紀要第57号.
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/139572/1/eda57_531.pdf
- [3]夢野久作.少女地獄.黒白書房刊行.
1936.https://www.aozora.gr.jp/cards/000096/files/935_23282.html